

JTU-HYOGO  
兵庫高等学校教職員組合  
日本教職員組合(日教組)

# 兵高教新聞

裏面紹介

- ◆ 日教組平和集会
- ◆ 各専門部交渉日程 他

神戸市中央区中山手通 4-10-5 神戸市教育会館内 TEL078-261-0829 FAX078-261-1094 E-mail:hyokokyo@pearl.ocn.ne.jp

発行人：西村恭介 編集：兵高教書記局

## 教職員定数改善・教職員の働き方改革を求める日教組中央行動実施

11月27日、日本教職員組合は教職員定数改善・教職員の働き方改革を求める中央行動を実施し、兵高教からは西村執行委員長が参加しました。

最初に参議院議員会館1階会議室において意思統一集会を開催し、文部省概算要求や財政審の動向、教職員の働き方改革等について情勢報告を受けた後、各単組からの参加者が分担して、衆参両院の主要政党の国会議員に対する個別の要請行動を行いました。その後、兵教組からの参加者とともに、日政連会長・みずおか俊一参議院議員と意見交換の場を持ちました。

子どもたちのゆたかな学びを保障するためには、教職員定数改善をはじめとした教育環境の充実と学校の働き方改革をすすめることが必要です。文科省は、2025年度予算概算要求において、教職員定数改善(小学校における教科担任制の中学年への拡充、新規採用教員の持ち授業数軽減、生徒指導担当教師の全中学校への配置等)を要求していますが、十分なものではありません。補習等のための指導員等派遣事業では、学校教育活動の充実と働き方改革を実現する予算として、教員業務支援員(スクール・サポート・スタッフ)の補助額の増額、学習指導員の増員要求が行われましたが、すべての学校現場に配置するには至りません。

年末の政府予算案確定期にむけて、概算要求された内容が確実に予算化されるようとりくむ必要があります。地方からも中央に声を上げるとりくみや教育にかかわる様々な団体が意思統一し世論形成をしていくことが極めて重要です。

中央行動に引き続き、参議院議員会館講堂において、日本教職員組合が加盟する「子供たちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体連絡会(通称・子ども支援連絡協議会)」の全国集会が開催されました。

文部科学大臣をはじめとした文部科学省政務三役と国会議員の他、教職員・教育関係者など、約300人が参加し、日教組の各単組からも148人の参加がありました。

参加者を前に、あべ俊子文科大臣から教職員の処遇改善、働き方改革の加速化、教職員定数改善を最重要課題としている等の挨拶があり、自民党・公明党・立憲民主党・国民民主党・社民党・日本維新の会から代表して参加した国会議員が挨拶に立ちました。

集会では、小学校教科担任制の中学年への拡大や中学校の生徒指導担当教員の配置拡充などにむけ、教職員定数の改善をすすみやかに行うとともに、中学校・高等学校も含めた少人数学級の計画的な整備を実現することや、いわゆる「3分類」に基づく業務の適正化の基盤に加え、学校教育を支える事務職員など少数職種種の定数改善や支援スタッフの充実を図ること、教員の処遇改善として教職調整額を大幅に引き上げること、などのアピールが採択されました。そして、教育関係団体として国会議員など各方面に要望活動を行うことを確認して、集会を終えました。

子どもたちは、どこで生まれ、どこで育つても等しく学ぶ権利があります。私たちは子どもの権利条約の理念実現をめざし、子どものゆたかな学びの保障にむけ、教職員の長時間労働是正をはじめ教育環境整備等、子どもをとりまく課題の解決にむけ、関係機関と連携し、教育の充実を引き続き求めていきます。



### 学習指導要領改訂にむけた院内集会

11月26日、参議院議員会館にて学習指導要領改訂にむけた院内集会を開催しました。全国の単組から対面で150人、国会議員20人(秘書参加含む)、加えて多くの方々もWebで視聴されました。

現在、学習指導要領の改訂を前に、現行の学習指導要領の問題点を「カリキュラム・オーバーロード」という言葉でとらえる動きが現場と文科省の双方ではじまっています。この問題点と課題について大森直樹さん(東京学芸大学)より、学習指導要領と同時に改定される標準時数のありかたに着目し、現在多くの義務教育学校の小学4年から中学3年まで行われている1日6時間授業が、子どもの生活に合っているのかという視点からの研究について講演がありました。

シンポジウムでは、名古屋隆彦さん(共同通信社編集委員)がコーディネーターをつとめ、大森直樹さん、柏原登希子さん(ふえみん婦人新聞記者・保護者)、水本典さん(現場教員)の3人のパネリストの方々と、カリキュラム・オーバーロードをめぐる問題をどうとらえるか、不登校の子どもが増えていることとの関連、そして私たちが今後どうするべきなのかをテーマに論議しました。発言の一部を紹介します。

・授業が学習内容過多な上にもすぎスピードで進んでいき、全体的に窮屈、休み時間でも遊ぶ余裕がない。  
・教員からの電話連絡が18時以降…、保護者としても教員の働き方が心配になる。

・学習指導要領をもとにして教科書が作成されているが、内容もページ数も増えている。さらに分量だけでなく、その学年で理解することが無理な内容や理解を混乱させる内容等が盛り込まれているのではないか。

・業務が多岐にわたる、勤務時間内では間に合わない。一番大切な授業の準備をする時間が無くなる。そうすると授業がうまくいかなくなり、わからない子どもたちが出てくる。それでも授業はすすめるなければならない。

・単に授業の持ちコマ数だけの問題ではなく、抜本的な標準時数の見直しが必要。

・「たくさん学ぶことがよい」という考え方を真剣に見直さなければならぬ。少なく教えて深く学ぶという発想に転換していきたい。部活動の扱いや高校の学習指導要領についても注視していくことが必要。

兵庫高等学校教職員組合(兵高教)は、《JTU日教組》加盟の組合で、1989年に設立しました。  
※「兵庫高教組」「兵高教組」「高教組」(兵庫県高等学校教職員組合)とは、関係ありません。



### 2024年度日教組平和集会 in 福島

11月9日(土)~10日(日)に福島県双葉郡にある「Jヴィレッジ」において2024年度日教組平和集会を開催しました。全国から約120人の組合員が集まり、兵高教からも立尾仁さん(視覚特別支援分会)が参加しました。立尾さんからの報告を掲載します。

全体会では、福島県教組より東日本大震災と東電福島第一原発事故当初から現在に至るまでの経緯についての報告に加え、高校生平和大使の活動報告も行われました。また、分科会では、原発、基地問題、戦後補償、平和運動・教育について等のレポートをもとに議論が交わされました。兵高教は第3分科会「戦後補償や国際連帯のとりくみ」に参加し、宮城高校教育ネットワークユニオンの「仙台の軍事産業-学都と軍部のはざままで」、長崎県教組(長崎被爆二世教職員の会)からの「原爆被災者の認定についてのとりくみ」紹介の2つのレポートを聴き、学習を深めました。青年部層の参加者も多く、全国の現状や平和について考えるよい機会となりました。また、日退教・退女教からの参加者には、平和をどのようにとらえているのか、今までの平和へのとりくみはどうだったのかなど、運動の歴史についてお話いただきました。

2日目のフィールドワークでは、福島県教職員組合委員長のガイドで東電福島第一原発周辺をバスの車窓から見学し、「東日本大震災・原子力災害伝承館」を訪問しました。約1時間20分の車窓見

学でも、復興までの道のりはかなりの時間が要することを学ぶことができました。

伝承館館内見学では、故西田敏行さん(福島県郡山市出身)の語りによる津波発生時の様子や被害や避難、復興や廃炉についてなどの紹介がありました。優しい語り口で、最後に「復興は今も続いている」とのナレーションが印象的で、被害の規模の大きさと復興への時間の長さを感じました。館内では、津波や原発事故、避難の様子などの映像が流され、津波で被害にあった壊れたポストや除染作業の服装、避難の様子、避難指示の標識、復興への道のりなどの展示がありました。

最後に、当時小学生だった方からスライドを使いながら避難の様子や生活、復興までのことについて、約40分、お話を聴きました。ただし、公費が投入された施設であるため、原発事故の責任についての言及には制限があるそうです。



全体会



津波で潰された消防車

### 対県教委・専門部交渉

	日時	場所
障害児学校部	12月9日(月) 17:00~17:45	東灘区文化センター (うはらホール) 会議室1・2
女性部	12月9日(月) 18:00~18:45	
定通部	12月10日(火) 17:00~17:45	
青年部	12月10日(火) 18:00~18:45	

あなたの思いや提言・職場の実態を、直接県教育委員会の担当者に伝えることができる貴重な機会です。兵高教組合員の方はどなたでも出席し、発言することができます。積極的にご参加ください。交渉参加は職務専念義務免除(専免)の対象となりますので、必要な方はそれぞれの交渉日前日正午までに書記局までご連絡ください。

※現業職員部は11/19に実施済みです。

### 2024年度 第2回全県分会代表者会議

とき 12月14日(土) 13:30~16:00

ところ 書記局(神戸市教育会館5階)

議題 2024給与確定交渉の結果について、中央情勢、分会交流 他

第32回  
日教組近畿ブロック  
母と女性教職員の会

「子どもたちに平和な未来を」

開催日時: 2025年2月8日(土) 10:00~16:00  
会場: ラッセホール  
神戸市中央区中山手通4-10-8  
TEL 078-291-1117

9:30 受付  
10:00 開会行事  
10:30 記念講演 「私たちの家から  
~六甲ウィメンズハウス開設までの30年~」  
講師 正井 禮子さん(ウィメンズネットこうべ代表)

12:00 昼食休憩

13:00 分科会  
(1) ともに生きる社会  
・「わたしとつながる沖縄 あなたとつながる沖縄」(大阪P:大森 正子さん、岡部 修子さん)  
・「そして父になる、とは言っていない」(京都T:竹花 輝さん)  
(2) 子どもと人権  
・「誰もが元気になる中友をめざして」(奈良P:小林 三恵子さん、T:石本 智子さん)  
・「ジェンダーの視点で取り組んだ労働教育 ~すべての子どもが安心して働ける未来のために~」(滋賀T:田中 節子さん)  
(3) 女性の生き方  
・「喜びや悲しみ、いろんな出会いこそ人生の宝物~双子の重度自閉症児と歩んだ20年~」(兵庫P:近野 悦子さん)  
・「きっと私だけ ~これがDVなんだと気づいた時から、今の私にいたるまでのたくさんの人との関わり~」(兵庫P:西川 恵さん)

16:30 夕食交流会

問い合わせ 兵庫県教職員組合  
078-241-2345 〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-10-8